

学校名 [八幡小学校]

氏名 [宮崎 美喜]

[小] 学校 [4, 5, 6]

年版 単元名 [取り組もう！ボランティア活動] P50～51

教科・領域名

[学級活動]

[時間 45分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

目指す児童の姿

◆東日本大震災の被害の様子やそのときの人々の状況について、関心を持って話を聞いたり考えたりする。

◆ボランティア活動の意義を理解し、被災した人々のためにできるボランティア活動を考える。

1 東日本大震災の被害の様子について知る。

今から7年前、東北地方でとても大きな地震が起きました。P4, 5の①～⑧の写真から分かることや気付いたことは何ですか。

- ・仙台駅や道路がめちゃくちゃに壊れている。
- ・市役所前の広場にたくさんの人が避難している。
- ・津波が押し寄せて、家や車を押し流している。
- ・仙台港の石油コンビナートが燃えている。
- ・体育館にたくさんの人が避難している。

2 震災後の人々の生活の様子を知る。

大きな地震のために津波が起こり、多くの被害が出ました。当時の様子を、保護者の皆さんに話していただきましょう。

- ・電気、水道、電話、ガスが使えなくなった。
- ・電気が使えなくて暗い。ヒーターが使えなくて寒い。
- ・ご飯を作れない。お風呂にも入れない。
- ・近くの小学校に避難した。

3 震災時のボランティア活動について理解する。

震災のとき、どのようなボランティア活動が行われたのでしょうか。また、どんな人がボランティア活動に取り組んだのでしょうか

- ・避難所での人々の支援活動
- ・給水車による水の配布の支援
- ・学生や地域の人々、県内から自発的に集まった人々によってボランティア活動が行われた。

3 私たちにできるボランティア活動を考える。

災害が発生したとき、どのようなボランティア活動ができるかを考えましょう。

- ・体育館（避難所）での炊き出し、救援物資の運搬、掃除などの手伝い
- ・下学年の世話やお年寄りへの支援
- ・近所の被災者への支援、手伝い

本時の授業で学んだことを、①どこに②どのようにつなげるか。

◆道徳「土石流の中で救われた命」（感謝）と関連させ、共助と周りの人々への感謝につなげる。

◆国語「町の幸福論」と関連させ、地域の人々のつながりが共助の精神を育てることに気付かせる。

○授業参観でこの学習を行い、保護者に協力をいただく。

○副読本 P4, 5「東日本大震災発生」と P50, 51「取り組もう！ボランティア活動」を関連づけて使用

○児童は当時3歳なので、震災に関する記憶はほとんどない。写真を見ても正確に状況を捉えるのは難しいので、被害の様子を説明する。(地震による津波と、それによる被害、建物の倒壊、避難所に集まる人々等)

○子供たちの保護者に震災当時の様子を話してもらおう。自分の家族の様子や友達の様子について直接話を聞くことにより、児童が自分の身近な問題として捉えられるようにする。

○事前に学級だよりで授業の主旨について伝え、震災時どのようなことに困り、どんな支援を必要としていたかを話していただく。

○避難所など、さまざまな場所でボランティア活動が行われていたことや、その内容について目を向けさせる。

○震災当時の担任の経験を話す。

・避難所になった体育館で高学年児童が自発的に行ったトイレ掃除について

・担任の子供が、近くの小学校のプールからトイレ用の水をバケツで運んだことについて

○自助、共助の考え方を確認する。

○相手の立場に立って考えること、自分のことも考えて、無理のないボランティア活動を考える。ワークシートにまとめ、紹介し合う。

○故郷復興プロジェクトへの取り組みについて確認し、これからできることについても考えさせる。